

IBM IoT Connected Vehicle Insights

本「サービス記述書」は「クラウド・サービス」について規定するものです。該当する注文関連文書には、お客様の発注に関する価格の詳細情報および追加の詳細情報が記載されています。

1. クラウド・サービス

1.1 オファリング

お客様は、利用可能な以下のオファリングから選択することができます。

1.1.1 IBM IoT Connected Vehicle Insights Dedicated Node Base

IBM IoT Connected Vehicle Insights Dedicated Node Base オファリングでは、自動車業界に特化したアプリケーションの開発イネーブラーを提供して、データ収集、ストレージ、リアルタイム処理、およびビジネス・ルール・サポートに対応します。「クラウド・サービス」は、車両の位置、移動、車両の正常性、および分析上の洞察を取り込むための API を提供します。API を使用して、地図コンテンツやドライバーの振る舞いに関するデータを含む大量の自動車データを取得、管理することもできます。

「クラウド・サービス」では、MQTT、HTTPS、および UDP など業界における一般的なメッセージ・プロトコルをサポートしていることから、お客様は既存の車両データ・ストリームをサービスに統合して幅広いストリーミングやビッグデータ・アナリティクスに対応することができます。選択されたデータは、照会や抽出が可能な場所に保管されます。

「クラウド・サービス」の各「インスタンス」使用許諾は、10,000 デバイスをサポートします。200GB のデバイス・データが転送され、2TB のデータが保管されます。

参考例として示しておきますと、200GB のデータ転送、および 2TB のストレージは、月 25 日間、1 日に 2 時間 20 分にわたって駆動された 10,000 台の車両の 1 台に相当します (45% の車両が同時にアクティブな状態)。それぞれが 6 秒ごとに 0.6KB のサイズのメッセージを転送すると、「クラウド・サービス」に転送された毎月 20MB のデータに相当することになります。処理され分析されたデータと結果は、実稼働インスタンスについては 90 日間保管され、非実稼働インスタンスについては 45 日間保管されます。実際の結果は、その他の要因により異なる可能性があります。

1.2 オプション・サービス

1.2.1 IBM IoT Connected Vehicle Insights Dedicated Node Data Increment

本「クラウド・サービス」により、お客様は、基本サブスクリプションに含まれるものを上回る水準にまで、サポート対象のデバイス数および処理対象のデータ量を拡張できます。本オファリングに対する各「インスタンス」使用許諾では、保管されている 1TB のデータに対してサポートを提供します。10,000 デバイスに対して追加の 100GB デバイス・データが移行されます。

参考例として示しておきますと、Dedicated Nodes Data Increment は、1 つの Base Node において 10,000 デバイスのそれぞれに対してクラウド・サービスに転送される毎月 10MB の追加データに相当するものが提供されます。20,000 のデバイスに対応できるようキャパシティを増やすためには、2 つの Base Node (サービスに転送されるデバイスごとに毎月 20MB 相当から 40MB に至るまで) で、各 Base ノードごとに 2 つの「データ」増分が必要になります。全部で 4 つの「データ」増分になります。実際の結果は、その他の要因により異なる可能性があります。

1.2.2 IBM IoT Connected Vehicle Insights Dedicated Node Base Non-Production

本「クラウド・サービス」には、IBM IoT Connected Vehicle Insights Dedicated Nodes オファリングのすべてのフィーチャー、機能、およびキャパシティが付属しますが、非実稼働の用途に限定されます。

「クラウド・サービス」の各「インスタンス」使用許諾は、10,000 デバイスをサポートします。200GB のデバイス・データが転送され、1TB のデータが保管されます。

1.2.3 IBM IoT Connected Vehicle Insights Dedicated Node Data Increment Non-Production

本「クラウド・サービス」により、お客様は、非実稼働の基本サブスクリプションに含まれるものを上回る水準にまで、サポート対象のデバイス数および処理対象のデータ量を拡張できます。本オファリングの各「インスタンス」使用許諾は、保管されている 500GB のデータに対してサポートを提供します。10,000 デバイスに対して追加の 100GB デバイス・データが移行されます。

1.2.4 IBM IoT Connected Vehicle Insights Development Edition

本オファリングには、IBM IoT Connected Vehicle Insights Dedicated Nodes Cloud Service と同じフィーチャーおよび機能が付属しますが、各「インスタンス」使用許諾では、お客様は最大 100 のデバイスと 1TB のストレージ・スペースまでしか使用することができません。さらに、本オファリングは、本番運用ではなく、開発、実証実験といった非実稼働の目的のみで使用することができます。IBM IoT Connected Vehicle Insights Development Edition オファリングのプロビジョニングのためのデータセンターおよびロケーションは、IBM の裁量によるものとします。

1.2.5 IBM IoT Connected Vehicle Insights Development Edition Zenrin Map extension

本「クラウド・サービス」により、お客様は、IBM IoT Connected Vehicle Insights に含まれている Map Material Open Street Maps (OSM) を拡張し、株式会社ゼンリンによって供給される商用地図資料に基づく分析的な結果または洞察を得ることができます。

明確にするために付言すると、お客様は、株式会社ゼンリンによって供給される商用地図資料に直接アクセスすることはできません。

この追加機能は、IoT Connected Vehicle Insights Development Edition と組み合わせた場合のみ使用することができます。

1.2.6 IBM IoT Connected Vehicle Insights Zenrin Map extension

本「クラウド・サービス」により、お客様は、IBM IoT Connected Vehicle Insights に含まれている Map Material Open Street Maps (OSM) を拡張し、株式会社ゼンリンによって供給される商用地図資料に基づく分析的な結果または洞察を得ることができます。

明確にするために付言すると、お客様は、株式会社ゼンリンによって供給される商用地図資料に直接アクセスすることはできません。

この追加機能は、IBM IoT Connected Vehicle Insights Dedicated Node Non-Production Base または IBM IoT Connected Vehicle Insights Dedicated Node と組み合わせた場合のみ使用することができます。

2. データ処理およびデータ保護に関するデータ・シート

IBM のデータ処理補足契約書 (<http://ibm.com/dpa> に公開。「DPA」) のほか、以下のリンクの「データ処理およびデータ保護に関するデータ・シート」(データ・シートまたは「DPA 別表」) にも、「クラウド・サービス」およびそのオプション(処理対象の「コンテンツ」の種類、対象となる処理活動、データ保護機能、および「コンテンツ」の保存および返却についての仕様に関連)に関する追加的なデータ保護情報が記載されています。DPA は、i) EU 一般データ保護規則 (EU/2016/679) (GDPR)、または ii) <http://ibm.com/dpa/dpl> に記載されているその他のデータ保護法が適用される場合に、その適用範囲に限り、「コンテンツ」に含まれる個人データに適用されます。

IBM IoT Connected Vehicle Insights

<https://www.ibm.com/software/reports/compatibility/clarity-reports/report/html/softwareReqsForProduct?deliverableId=329E3F105D4F11E6865BC3F213DB63F7>

IBM IoT Connected Vehicle Insights Development Edition

<https://www.ibm.com/software/reports/compatibility/clarity-reports/report/html/softwareReqsForProduct?deliverableId=19BDD890E38011E69CCD7F0385C6524D>

3. サービス・レベルおよびテクニカル・サポート

3.1 サービス・レベル・アグリーメント

IBM は、以下の可用性のサービス・レベル・アグリーメント (以下「SLA」といいます。) をお客様に提供します。IBM は、下表のとおり、「クラウド・サービス」の累積的な可用性に基づき、適用しうる最大の補償を適用します。「可用性」は、契約月における分単位の総時間数から、契約月における「サービス・ダウン」の分単位の総時間数を差し引き、それを契約月における分単位の総時間数で除することにより算出され、結果はパーセントで表します。「サービス・ダウン」の定義、請求のプロセス、サービスの可用性の問題に関して IBM に連絡する方法については、IBM の「クラウド・サービス」のサポート・ハンドブック (https://www.ibm.com/software/support/saas_support_overview.html) に掲載されています。

可用性 - 高可用性の Public 環境 または複数の Dedicated/Local 環境	可用性 - その他の環境	クレジット (月額サブスクリプション料金の パーセント*)
99.95% 未満	99.5%	10%
99.9% 未満	99.0%	25%

*サブスクリプション料金は、請求対象月に関して約定した料金です。

3.2 テクニカル・サポート

「クラウド・サービス」のテクニカル・サポート (サポート窓口の連絡先情報、重大度レベル、サポート利用可能時間、応答時間、その他のサポート情報およびサポート・プロセスなど) を参照するには、IBM サポート・ガイド (<https://www.ibm.com/support/home/pages/support-guide/>) の「クラウド・サービス」を選択します。

4. 料金

4.1 課金単位

「クラウド・サービス」の課金単位は、「個別契約書」に記載されます。

以下の課金単位が本「クラウド・サービス」に適用されます。

- 「インスタンス」は、「クラウド・サービス」の特定の構成への各アクセスを意味します。
- 「アイテム」とは、「クラウド・サービス」の利用により管理、処理される、または「クラウド・サービス」の利用に関連する特定のアイテムが 1 回発生することをいいます。本「クラウド・サービス」において、「アイテム」は固有の識別番号が付与された車両です。
- 「ギガバイト」(「GB」)とは、「クラウド・サービス」によって処理されるか、「クラウド・サービス」において使用、保管、または構成される 2 の 30 乗バイトのデータとして定義されません。
- 「テラバイト」(2 の 40 乗バイト)は、「クラウド・サービス」で処理、使用、保存、または構成される容量です。

5. 追加条件

2019 年 1 月 1 日より前に締結されるクラウド・サービス契約書 (または同等のクラウド基本契約) については、<https://www.ibm.com/acs> に掲載されている条件を適用します。

5.1 非実稼働に関する制限事項

「クラウド・サービス」が本番運用ではなく開発、実証実験といった非実稼働を目的とした用途のみで使用可能と指定されている場合、その「クラウド・サービス」は、お客様の社内での非実稼働活動に対してのみ使用することができます。この活動には、テスト、パフォーマンス調整、障害診断、内部ベンチマーキング、ステージング、品質保証活動、または公開されたアプリケーション・プログラミング・インターフェースを使用して行われる「クラウド・サービス」に対する内部使用の追加機能または拡張機能の開発などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。お客様は、「クラウド・

サービス」のいかなる部分も、実稼働に関する適切な使用許諾を取得せずに、その他の目的で利用することはできません。

非実稼働インスタンスには、実稼働インスタンスに関して提供される高可用性、または同じ頻度のバックアップは含まれません。

5.2 お客様のアプリケーションに対する責任

お客様、またはお客様の代理を務める第三者は、IBM IoT Connected Vehicle Insights の「クラウド・サービス」の開発オフリングまたは非実稼働オフリングに関連して IBM がお客様に提供する IBM 文書に記載された API およびプラグインを使用して、お客様のアプリケーションをカスタマイズまたは構成することができます。かかる文書は現状のまま提供され、お客様はかかるお客様のアプリケーションの開発、テストに対して、ならびにお客様のアプリケーションが原因で「クラウド・サービス」に生じる可能性のあるセキュリティーの脆弱性に対して、全責任を負います。かかるお客様のアプリケーションの結果として「サービスのダウンタイム」が生じた場合、IBM はお客様に対して「SLA クレジット」を支払いません。

5.3 Zenrin Map Extension の追加条件

お客様が Zenrin Map Extension の「クラウド・サービス」のいずれかをサブスクライブしている場合、IBM およびその関連会社は、アカウント管理の目的のために、IBM のサプライヤーである株式会社ゼンリンに対してお客様の名前を開示します。コンテンツならびにその他のビジネス上の連絡先情報およびアカウント・データは開示されません。

5.4 バックアップ

バックアップは「実稼働インスタンス」について毎日実行され、ローカルおよび「オフサイト」に保存されます。「非実稼働インスタンス」のバックアップは毎週実行され、ローカルに保存されます。お客様は、個々のユーザーによるデータの削除を防止する「クラウド・サービス」のセキュリティーを構成する責任を負います。データが削除された場合には、IBM には当該削除データを復旧する義務がないこと、および可能な場合には、かかる作業について料金を課すことができることをお客様は了承し、同意するものとします。

5.5 災害復旧

お客様が少なくとも 1 つの実稼働環境を購入している場合に、自然災害 (例: 火災、地震、洪水、その他) によって大規模なシステムの中断が発生したときは、目標復旧時間を 72 時間として、お客様の実稼働データを復元するために、商業的に合理的な努力を払うことによって災害復旧を遂行します。これは保証ではなく、サービス・レベル・アグリーメントも一切適用されません。